

学習指導要領・解説書のNIEに関連する記述

[総則]

◆教育課程実施上の配慮事項

小・中・高校＝言語活動の充実

思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、言語活動を充実すること。

小・中・高校＝学校図書館の利活用

学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

小・中＝体験的・問題解決的な学習及び自発的な学習の促進

各教科等の指導に当たっては体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童（生徒）の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

[国語]

◆小学校

*「話すこと・聞くこと」の言語活動例

1～2年＝ア 事物の説明や経験の報告をし、それらを聞いて感想を述べる

3～4年＝ア 出来事の説明や調査の報告をし、それらを聞いて意見を述べる

＝ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり聞いたりする

5～6年＝ア 資料を提示しながら説明や報告をし、聞いて助言や提案をする

＝イ 調べたことやまとめたことについて討論などをする

＝ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりする

*「書くこと」の言語活動例

1～2年＝ア・イ・ウ 想像したこと、経験したことの報告、観察したことの記録や文章を書く

＝エ 紹介したことをメモにまとめたり、文章に書く

＝オ 伝えたいことを簡単な手紙に書く

3～4年＝ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書く

5～6年＝イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章を書いたり編集する

*「読むこと」の指導事項と言語活動例

・説明的な文章の解釈

3～4年＝イ 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む

5～6年＝ウ 文章の内容を的確にとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかく

・自分の意見形成及び交流

1～2年＝オ 文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えを発表し合う

3～4年＝エ 文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約する

＝オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く

5～6年＝オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする

・言語活動例

1～2年＝ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げながらかく

3～4年＝イ 記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する

ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う

オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章を読む

5～6年＝イ 課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章を利用する

◆中学校

*「話すこと・聞くこと」の言語活動例

1年＝ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をし、聞いて質問や助言をする

イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行う

2年＝ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をし、それらを聞いて意見を述べる

イ 社会生活の中の話題について司会や提案者を立てて討論を行う

3年＝ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをし、聞いて自分の表現の参考にする

イ 社会生活の中の話題について相手を説得するために意見を述べ合う

*「書くこと」の指導事項と言語活動例

・課題設定や取材（「話すこと・聞くこと」と同趣旨）

1年＝ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる

2年＝ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめる

3年＝ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深め、文章の形態を選択して適切な構成を工夫する

・言語活動例

1年＝イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書く

ウ 行事等の案内や報告をする文章を書く

2年＝イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書く

3年＝ア 関心のある事柄について批評する文章を書く

イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集する

＊「読むこと」の指導事項と言語活動例

・文章の解釈

3年＝イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てる

・自分の考えの形成

1年＝エ 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ

2年＝ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめる

エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ

3年＝ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価する

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ

・読書と情報活用

1年＝カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る

2年＝オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て自分の考えをまとめる

3年＝オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり自分の考えを深める

・言語活動例

1年＝イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読む

2年＝イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる

ウ 新聞やインターネット、学校図書館等を活用して得た情報を比較する

3年＝イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む

◆高校

○国語総合

＊話すこと・聞くこと

・内容

ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にして論理の構成や展開を工夫して意見を述べる

ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合う

＊書くこと

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書く
- イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる
- ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書く
- エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行い、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする

＊読むこと

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む
- イ 文章の内容を叙述に則して的確に読み取ったり、要約や詳述をする
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に則して読み味わう
- エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方を評価したり書き手の意図をとらえる
- オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする

・内容の取り扱い

(6) 教材への留意事項

ウ 教材で取り上げる際の配慮

- (ウ) 思考力や創造力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くのに役立つ
- (エ) 情報を活用して公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つ
- (オ) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つ
- (キ) 人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つ
- (ケ) 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高める

○国語表現

・内容

- ア 話題や内容に応じて情報を収集し分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする
- イ 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う
- ウ 主張や感動などが効果的に伝わるように論理の構成や描写の仕方などを工夫して書く
- オ 様々な表現について効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評して、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする

・内容の取り扱い

- (4) 教材は思考力や創造力を伸ばす学習活動に役立つもの、情報を活用して表現する学習活動に役立つもの、歴史的、国際的な視野から現代の国を考える学習活動に役立つものを取り上げる

○現代文A

・内容

- ア 文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて

て考察する

- イ 文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深める
- ウ 文章を読んで言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する
・言語活動
- ウ 図書館を利用して同じ作者や同じテーマの文章を読み比べ、話し合ったり批評する

○現代文B

・内容

- ア 文章を読んで構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する
- イ 文章を読んで書き手の意図や人物、情景、心情の描写を的確にとらえ、表現を味わう
- ウ 文章を読んで批評することを通して人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させる
- エ 目的や課題に応じて収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し自分の考えを効果的に表現する
・言語活動
- イ 論理的な文章を読んで書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く
- ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行う
- エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集する

[社会]

*改訂の趣旨

(1) 小・中・高校共通＝改善の基本方針

- ・社会科、地理歴史科、公民科においては、小・中・高校を通じて社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する

◆小学校

*目標

共通＝社会生活について理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う

3～4年＝(3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる

5年＝(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、統計などの各種の

基礎的資料を有効に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる

6年＝(2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きていくことが大切であることを自覚できるようにする

(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる

◆中学校

*目標

共通＝広い視野に立って社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的素養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う

*各分野の目標

地理的分野＝(2) 日本や世界の地域の諸事情を位置や空間的な広がりとのかかわりでもとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地理的特色や地域の課題をとらえさせる

歴史的分野＝(3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う

(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多角的・多面的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる

公民的分野＝(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任と義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う

(2) 民主主義の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり及び現代の社会生活などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ自ら考えようとする態度を育てる

(3) 国際的な相互依存の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる

(4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と

態度を育てる

[地理歴史]

◆高校

*改訂の趣旨

中学校社会科の学習を踏まえ、各教科の特質と相互の関連性を考慮しながら習得した知識、概念や技能を活用して、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事情について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的諸現象についての見方や考え方を成長させるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視して改善を図る。

[公民]

◆高校

*改善の具体的事項

- ・公民科については、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成するため、各科目の専門的な知識、概念や理論及び倫理的な諸価値や先哲の考え方などについて理解させるとともに、それを手掛かりに各科目の特質に応じて取り上げた諸課題を考察させ、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方と人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視する。
- ・「現代社会」については倫理、社会、文化、政治、法、経済にかかわる現代社会の諸課題を取り上げて、人間としての在り方生き方についての学習や、議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題追究的な学習を一層重視する。
- ・「倫理」については、人間としての在り方生き方への関心を高めることを重視し、その手掛かりとして先哲の考え方を取り上げるとともに、自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解を深めさせる。また、生命、環境、情報、文化などを取り上げて、課題追究的な学習や討論を行うことを一層重視し、社会の一員としての自己の生き方を探求できるようにする。
- ・「政治・経済」については、習得した知識・概念や理論などを活用し、課題を追究させる学習を一層充実させ、政治や経済についての見方や考え方を培うようにする。また、グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大などに対応して、法や金融などに関する内容を充実させる。

[道徳]

*改善の具体的事項＝小・中共通

- (ア) 道徳教育の指導内容について、子どもの自立心や自律性、生命を尊重する心の育成をいずれの段階においても共通する重点として押さえるとともに、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度

などを育成するといった観点から、学校や学年の段階ごとに取り組むべき重点を示す。特に人間関係や集団の一員としての役割や責任などを実践を通して学ぶ特別活動をはじめとして各教科等がそれぞれの特質を踏まえ担うものについても明確にする。

*指導における配慮と充実

3 魅力的な教材の開発や活用＝小・中共通（カッコ内は中学の表現）

教材は、児童（生徒）が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして、極めて大きな意味をもっている。また児童（生徒）が人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学び合う共通の素材として重要な役割をもっている。従って、道徳の時間に用いられる教材の具備すべき要件として、次の点を満たすことが大切である。

ア 人間尊重の精神にかなうもの

イ ねらいを達成するのにふさわしいもの

ウ 児童（生徒）の興味や関心、発達段階に応じたもの

エ 多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの

オ 特定の価値観に偏しない中立的なもの

また、教材を選定する教師自身が感動を覚えてこそ、よい教材といえる。児童（生徒）がより学習に意欲的に取り組み、学習への充実感をもち、道徳的価値観の自覚を深めることができるようにするために、次のような要件を具備する教材を選択するように心掛ける。

ア 児童（生徒）の感性に訴え、感動を覚えるようなもの

イ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの

ウ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えさせられるもの（考えることができるもの）

エ 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの

オ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの

カ 多様で発展的な学習活動を可能にするもの

[総合的な学習の時間]

*改訂の趣旨＝小・中・高校共通

(1) 改善の基本方針

・総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められている「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。

総合的な学習の時間については、その課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の

定着やこれらを活用する学習活動は教科で行うことを前提に、体験的な学習に配慮しつつ教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な活動となるよう充実を図る。

- ・総合的な学習の時間において、補完学習のような専ら特定の教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備などと混同された実践が行われたりしている例も見られることや学校間・学校段階間の取組の実態に差がある状況を改善する必要がある。そのため、教科において基礎的・基本的な知識・技術の確実な習得やその活用を図るための時間を確保することを前提に、総合的な学習の時間と各教科、選択科目、特別活動のそれぞれの役割を明確にし、これらの円滑な連携を図る観点から、総合的な学習の時間におけるねらいや育てたい力を明確にすることが求められる。なお、総合的な学習の時間が適切に実施されるためには、効果的な事例の情報提供や人材育成などの十分な条件整備と教師の創意工夫が不可欠であることは言うまでもない。

(2) 改善の具体的事項

- ・総合的な学習の時間のねらいについては、小・中・高校共通なものとし、子どもたちにとっての学ぶ意義や目的意識を明確にするため、日常生活における課題を発見し解決しようとするなど、実社会や実生活とのかかわりを重視する。また教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な活動を行うことをより明確にする。
- ・小学校において情報に関する学習を行う際には、問題の解決や探求的な活動を通して、情報を受信し、収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるよう配慮する。
- ・中学校において職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探求的な活動を通して、自己の生き方を考えるなどの学習活動が行われるよう配慮する。
- ・互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換など、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視するとともに、言語により分析し、まとめ・表現する問題の解決や探求的な活動を重視する。その際、中学校修了段階において、学習の成果を論文にまとめることなどにも配慮する。

*目標＝小・中・高校共通

横断的・総合的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする

[特別活動]

*改善の趣旨＝小・中・高校共通

(1) 改善の基本方針

特別活動と道徳、総合的な学習の時間のそれぞれの役割を明確にし、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るといふ特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会

に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。

[情報] (共通教科情報科)

*改善の基本方針

- ・普通教科「情報」については、その課題を踏まえ、高校生の発達の段階や多様な実態に応じて、情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度をはぐくむとともに、情報に関する科学的な見方・考え方を確実に定着させる指導を重視し、科目やその目標・内容の見直しを図る。
- ・情報を適切に活用する上で必要とされる倫理的態度、安全に配慮する態度等の育成については、情報モラル、知的財産の保護、情報安全等に対する実践的な態度をはぐくむ指導を重視する。
- ・生徒の多様な学習要求に応えるとともに、進路希望等を実現させたり、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度をはぐくむために、より広く、より深く学習することを可能にする内容を重視する。

*改善の具体的事項

- ・社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度をはぐくむために、情報教育の目標の3観点をより一層重視することとし、次のような改善を図る。

(ア) 高校生の実態は多様化している一方で、情報及び情報機器等の活用が社会生活に必要な不可欠な基盤として発展する中、これらを活用して高い付加価値を創造することができる人材の育成が求められている。これらを踏まえ、情報活用の実践力の確実な定着や情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度や規範意識の育成を特に重視した上で、生徒の能力や適性、興味・関心、進路希望等の実態に応じて、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方について、より広く、深く学ぶことを可能とするよう現行の科目構成を見直し「社会と情報」、「情報の科学」の2科目を設ける。

- ・「社会と情報」については、情報が現代社会に及ぼす影響を理解させるとともに、情報機器等を効果的に活用したコミュニケーション能力や情報の創造力・発信力等を養うなど、情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度を育てることに重点を置く。
- ・「情報の科学」については、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を科学的な見方・考え方で理解し、習得させるとともに、情報機器等を活用して情報に関する科学的思考力・判断力等を養うなど、社会の情報化の進展に主体的に寄与することができる能力・態度を育てることに重点を置く。

以 上